オルケストラ　シンフォニカ　東京

第 46 回

定　期　演　奏　会

平成 17 年 4 月 11 日（月）午後 7:00 開演

第一生命ホール

プログラム

第一部　指揮：嶋　直樹

1. 歌劇「劇場支配人」序曲　W.A.モーツァルト(宮田俊一郎編曲)
2. 踊る人形　E.ポルディーニ(久松祥三編曲)
3. 弦楽四重奏第1番より「アンダンテカンタービレ」　P.I.チャイコフスキー(嶋 直樹編曲)

第二部　指揮：宮本皓永

1. 春さりゆく　武井守成
2. 檳榔子　武井守成
3. 富士旅情　鈴木静一
   芭蕉の句と広重の絵によるファンタジー

第三部　指揮：山本雅三

1. グラナダ　I.アルベニス(中川信良編曲)
2. アンダルース　P.ラコム
3. セギデリア　A.ルスパンティーニ
4. 組曲「スペイン」　S.ファルボ
   Ⅰ セレナータ カステリャーナ
   Ⅱ－Ⅲ ホタとカンツォーネ
   Ⅳ ボレロ

曲　目　解　説

第一部

歌劇「劇場支配人」序曲

ｳｫﾙﾌｶﾞﾝｸﾞ・ｱﾏﾃﾞｳｽ・ﾓｰﾂｧﾙﾄ（宮田俊一郎 編曲）

W.A.モーツァルト（1756年～1791年）が1786年31歳の時に作曲した音楽付き喜劇とも言われる１幕10場の歌劇の冒頭を飾る序曲で、歌劇は第６場までは劇のみ、第７場以降にアリアなどが入ります。「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」「魔笛」の３大歌劇を作曲したのと同じくウィーン在住時代の作品で、全曲を通してプレストの速い快活な曲想です。

歌劇のあらすじは、ある劇場の支配人が興行の企画をする中でプリ・マドンナの人選が紛糾し騒動が巻き起こりますが最後はめでたしめでたしというような喜劇です。

踊る人形

ｴﾄﾞｱﾙﾄﾞ・ﾎﾟﾙﾃﾞｨｰﾆ（久松祥三 編曲）

E.ポルディーニ（1869年～1957年）はハンガリーに生まれスイスに移住して生涯を終えました。ピアノ曲以外にバレー曲・歌劇など全部で156曲の作品を残しています。本日演奏致します「踊る人形」は1895年、彼が27歳のときの作品で元来はピアノ曲ですが、F.クライスラー（1875年～1962年）によりバイオリンの小品として編曲され今日では世界中で愛奏されています。小さな可愛らしい人形が軽やかにワルツを踊る様子がマンドリン合奏でどのように表現されるかをお楽しみください。

「弦楽四重奏曲第１番 ニ長調 OP11」より「アンダンテ カンタービレ」

ﾋﾟｮﾄﾙ・ｲﾘｲﾁ・ﾁｬｲｺﾌｽｷｰ（嶋　直樹 編曲）

P.I.チャイコフスキー（1840年～1893年）は生涯に３曲の弦楽四重奏曲を作曲しています。「歩く速さで歌うように」という意味の音楽用語を標題に持つこの曲は1871年、彼が31歳で書いた弦楽四重奏曲の第２楽章でした。この心に染入るメロディーは元々ロシア・ウクライナ地方の民謡から採譜されたもののようです。チャイコフスキーは大文豪トルストイ（1828年～1910年）とも親交があったようで彼を招いての音楽会ではこのメロディーを耳にしたトルストイが涙を流したというエピソードが伝わっており、このときのお礼の書簡がトルストイ全集（1967年河出書房刊）に集録されています。

（嶋）

第二部

春さりゆく

武井守成

1940年（昭和15年）11月の作(op.46)。'41年（昭和16年）6月作曲者（1890年～1950年）指揮により初演されました。その後O.S.Tの定期演奏会では3回演奏されています。('53年，'44年，'72年)

作者の言葉として「春が過ぎてゆく、静かに音もなく過ぎてゆく，あとには華やかな夏が迫りよっているにしてもやはりそれは淋しい。春が過ぎてゆく、静かに音もなく･･･。」

檳榔子

武井守成

1943年（昭和18年）2月の作（op.74)。同年5月作曲者指揮により初演されました。'44年（昭和19年）11月ビルマ国代表バーモ氏来日宮中午餐の節においてカエタノ・コメリ氏指揮宮内省楽部管弦楽により演奏されています。その後O.S.Tの定期演奏会では4回演奏され、最近では'89年（平成元年）に石黒不二夫（現メンバー・ベース担当）の指揮により演奏されました。

曲は2/4・3/4・4/4拍子が目まぐるしく交錯しテンポの変化と和音進行が当時としては思いもつかない奔放な手法になっています。

檳榔子は樹（南方原産のヤシ科の椰子に似た植物）の実をいい暗紅色、鶏卵大で現地の人は趣好品としてこれを良く噛んでいます。その他には薬用、染料としても使われ、太平記には「長絹の御衣に檳榔の裏なしを召され･･･」とあるように日本でも古くから利用されていたようです。

富士旅情

鈴木静一

作者は1904年（明治38年）に東京で生まれ1998年に没しました。小さい頃からオルガンを学び、中学では声楽も学んでいます。やがてマンドリンに転向しますが独学で作曲を学び、東宝の専属となり映画や、劇場の音楽を担当することになります。

そこでの代表的なものとして黒澤明作品の「姿三四郎('43年)」「続姿三四郎('45年)」などを手がけています。同じ黒澤作品で軍需工場で働く少女達を描いた映画「一番美しく('44年)」の音楽を担当していたことが、ある資料により最近になって確認されています。

やがて再びマンドリン界に戻り、次々と意欲的に大曲を発表し、数多くの劇風形式の作品や抒情的作品、それに編曲を含めるとその数は100をゆうに超えているのは皆さんもご存知でしょう。

本曲の副題には「芭蕉の句と広重の絵によせるファンタジー」とあります。安藤広重には有名な浮世絵の東海道五十三次之内［川崎］［平塚］［箱根］［原］［吉原］［由井(由比)］と富士を描いたのは6点あります。中でも［原］には画面いっぱいに白雪に覆われた富士が描かれています。

一方、松尾芭蕉は郷里伊賀と江戸を何度も往復していたにもかかわらず、富士を詠んだ句は多くありません。

「霧時雨　富士を見ぬ日ぞ　面白き」や「目にかかる　時やことさら　五月富士」など霊峰富士を、すが目で詠んでいるようです。

その他に「富士の山　蚤が茶臼の　覆いかな」「富士の雪　盧生の夢を　築かせたり」などがあります。伊賀に帰郷した際、手ぶらで殿様に拝謁し「富士の風や　扇にのせて江戸土産」と茶目っ気な一面もあります。

東海道を詠んだ中で一番有名なのは「駿河路や　花橘の　茶の香り」でしょう。

余談ですが、奥の細道の書き出し句は「行く春や　鳥なき魚の　目は泪」ですが、締めの句として「蛤の　ふたみに別れ　行く秋ぞ」と見事に春、秋の対句となっています。

（宮本）

第三部

グラナダ　　イサーク・アルベニス（中川信良 編曲）

ピアノ曲集「スペイン組曲」第１集第１曲。I.アルベニス（1860年～1909年）はスペイン国民音楽の主要な担い手で、特に南部スペインのアンダルシア地方のギターを代表とする民俗音楽を基調とした近代的なピアノ曲を多く作曲し、スペイン音楽を国際的なものとすることに大きく貢献しました。グラナダはイスラム美術の粋を集めて作られ、またギター曲としても名高いアルハンブラ宮殿のあることで知られるスペイン南部の都市の名前です。

アンダルース　　パウル・ラコム（ｱﾙﾏﾝﾉ・ﾓﾙﾗｯｷ 編曲）

「３つの舞曲」より第２曲目。アンダルシア地方の民族舞曲の総称。P.ラコム（1838年～1920年）はフランスの作曲家でオペレッタ管弦楽等の作品があり、本曲はマンドリニストでミラノ・マンドリン合奏団の指揮者であったアルマンノ・モルラッキ（1872年～1941年）がマンドリン合奏曲に編曲し、友人のマンドリニスト、エンリコ・カンツィに贈っています。

セギデリア　　アニェーロ・ルスパンティーニ

A.ルスパンティーニはローマの聖チェチリア音楽院で学び、1910年にイタリア歩兵第16連隊付軍楽隊長となりました。1913年のイル・プレット誌作曲コンクールに応募して入賞した曲です。同名の曲がビゼーのカルメン第１幕にも登場するアンダルシア地方のいかにもスペイン的な３拍子系の民族舞曲です。

組曲「スペイン」　　サルヴァトーレ・ファルボ

Ⅰ セレナータ カステリャーナ　Ⅱ－Ⅲ ホタとカンツォーネ　Ⅳ ボレロ

本曲の他、「田園写景」「序曲ニ短調」「間奏曲」「プレクトラム四重奏」などで知られる作曲者のS.ファルボ（1872年～1927年）は、現在のマンドリンが19世紀半ばイタリアで誕生し、次第に発展し黄金期を迎えた20世紀初頭に活躍し、より高い次元の音楽性を持った作品群の発表で、斯界に大きく貢献した作曲家です。

「ファルボが死んだ。４月８日、その故郷シチリア島のアヴォラで、短い患いの後に、あの世に旅立った。ラウダス、ボッタッキァーリ、ミラネージ、アマデイ、マネンテ。マンドリンオーケストラ曲の作家として知られている人達を顧みる時、彼サルヴァトーレ・ファルボ・ジャングレコがいかに大いなる光明を放っていたかが今更に思い起こされる。ラウダスと彼とはマンドリン・オーケストラ曲作家として現代の双璧であるが、そのいずれがより大いなる仕事を残したかと言えば、（もちろん、ラウダスにおいては未来のそれを勘定に入れないでのことであるが）どうしてもファルボに軍配があがる。ああ、彼は死んだ。」我がO.S.Tのルーツであるオルケストラ・シンフォニカ・タケイの創始者・武井守成先生が昭和２年（1927年）９月号の「マンドリン・ギター研究」に寄せた一文です。ファルボの偉大さがよく感じられます。

本曲は1922年「イル・プレットロ」誌主催の作曲コンクールで第１位を受賞し、ミラノ・マンドリン合奏団に捧げられたものです。

（山本）

指　揮　者：○山本雅三　○宮本皓永　嶋　直樹

コンサートマスター：○本間輝樹

第一マンドリン：○本間輝樹　田島明子　城戸かほる　前田啓子
嶋　直樹　新谷文子　新居裕久　冨田容子
田邊理枝

第二マンドリン：諸井美津江　木村栄子　中沢敦子　○藤田正美
○後藤俊明　中村順子　平賀理恵子　小川洋子

マンドラテノール：岩片順子　田中倭文子　滝田ふさ子　森下康子
渡邊　清　佐々木興治　深野靖夫

ギ　タ　ー：宮本紀子　平田陽一　戸次　脩　黒崎恵美子
高橋貴久子　城所敏雄　門田雄二　佐竹眞弓
坂本富三郎　澤田行雄

リュート モデルノ：○宮本皓永　山本雅三

マンドチェロ：宮崎泰行　田村美恵子

マンドローネ：○家城孝治　石井啓之

コントラバス：佐藤　正　○石黒不二夫

フ　ル　ー　ト：•西村いづみ

クラリネット：•品川秀世

ピ　ア　ノ：•浦畠晶子

打　楽　器：•内田真裕子　•境　祥子

〔○――――幹　事
•――――賛助出演〕

オルケストラ　シンフォニカ　東京（ＯＳＴ）
連絡先：〒236-0057　横浜市金沢区能見台３－28－６　石黒不二夫
TEL&FAX　045－770－4806
ホームページ：http://ishii164.net/~ost/